

流域の人々の暮らしを守る田代山の治山対策



会津森林管理署南会津支署 治山技術官 筒井 建伍
関東森林管理局治山課 国有林治山係長 篠原 直生

1 田代山の現状と治山事業の必要性

田代山は、福島県南会津町と栃木県日光市の境に位置し、標高1,971mの広大で平坦な頂上部に湿原が広がる希有な山で、尾瀬国立公園の特別保護地区に指定され、多くの登山客が訪れる。

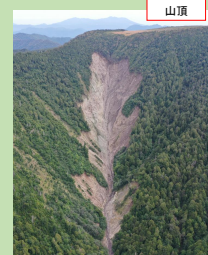
昭和30年代後半には北西斜面で山腹崩壊が確認され、これまでに治山事業を実施したが、平成30年及び令和元年に発生した台風の影響で崩壊地が大きく拡大した。

また、下流の西根川に大量の土砂が流出し、河川敷の天然温泉の埋没、アユの砂食い被害など、流域の人々の生活に支障を及ぼした。このため、地域から西根川上流域での継続的な治山事業実施の要望が出ている。

位置図



田代山山頂と崩壊地 (R5.7)



下流の天然温泉被災状況 (R3.8)



崩壊地の拡大状況

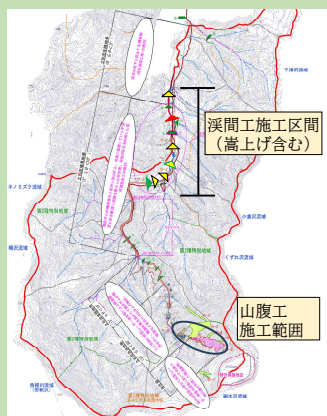
2 復旧方針と課題

2-1 復旧方針

令和元年度より航空レーザ計測等を実施し、調査結果を踏まえ検討委員会を開催したうえで、復旧方針を確認した。

- ・下流域への土砂流出を軽減するため、溪間工を整備する。
- ・田代山崩壊地の侵食を防止するため、山腹工を整備する。

期間	R3～R11 (9年間)
工種	溪間工 7基 山腹工 7.05ha



2-2 課題

- ・田代山崩壊地へのアクセス道がない(整備に時間を要する)。
- ・地元自治体等からは崩壊地への直接的な対策にも要望がある。

アクセス道の延伸を進め、上流部の崩壊地対策が急務である。

現状、実行可能な航空実播工による山腹緑化工(※BSC工法)を先行して実施した。路体が流失した旧宮里林道に代わる資材運搬路の調査(測量・設計)を進めた。あわせて、緑化状況等の経過観察を、職員によるドローン撮影等で行った。

3 施工実績(R5末時点)



嵩上げ2基完了、1基新設中



航空実播工 計3.60ha

4 経過観察

ドローン写真をオルソ化、GISに表示し①②について確認した。

- ①崩壊地の状況: 複数時期の写真を重ね、崩壊地の拡大の有無を確認
- ②緑化状況: 緑化が確認された箇所、およびその面積を計測

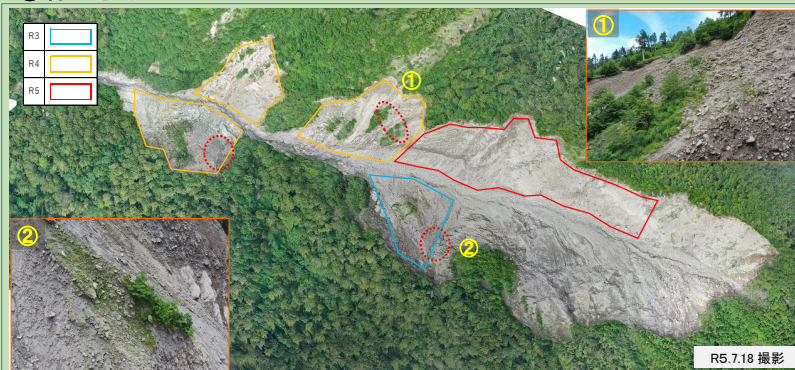
①崩壊地の状況



オルソ画像を重ね合わせた。

R3からこれまでで、崩壊地の拡大状況は認められなかった。

②緑化状況



- ①: 残存植生の周辺で、一体となり藻(BSC)が形成された箇所
- ②: 新たに藻が形成された箇所
→あわせて2,000m²ほど緑化していると推測。

登山道を田代山山頂へ、さらに奥地の観測ポイントまで辿り着き、その時の気象条件に左右されつつ、直接確認してきた。ドローンを運搬する労力はあるものの、約7haの崩壊地の状況を班編成して職員の協力を得ながら継続的に観察することができた。

土砂流出にかかる課題を地元自治体と関係行政機関等で構成される議論検討する場において、事業の計画・実績に関する数量のみならず、より具体的な状況を説明することができた。

5 今後の取り組み

- ・上流部や崩壊地での治山工事復旧対策を早期に実施すべく、資材運搬路の作設・延伸に向けて取り組みます。
- ・地元の方々から工事概要を伺いたいとの要望があったことから、引き続き、関係機関と合同での西根川上流地区説明会を開催していきます。また、西根川の上下流の地域で工事を実施している県との間で、さらに事業地の確認や合同パトロールを実施して、情報共有を図ってまいります。